



肉筆《赤のラナンキュラス、紫と黄色のバンジーの花束》
1821年／水彩画

御挨拶

一般社団法人 日本ルドゥーテ協会は、
(会社法人等番号 0900-05-006884)
ピエール = ジョゼフ・ルドゥーテの作品を広く日本の皆様に
知って頂くために2015年5月1日に設立されました。

定款 第1章 総則 第3条〈目的〉

当法人は、ピエール = ジョゼフ・ルドゥーテ作品の
鑑賞・研究・情報発信を通じて、
文化および芸術の振興に寄与することを目的とし、
その目的に資するため次の事業を行う。

- I ルドゥーテ作品の普及活動
- II ルドゥーテ作品の普及に寄与する事業等への支援活動
- III ルドゥーテ作品を初めとする、植物の記録に
芸術的に係わった作家たちに関する調査・研究活動
- IV ルドゥーテ作品を通じた歴史的および美学的な
植物に関する調査・研究活動
- V 前各号に掲げる事業に付帯する又は関連する事業



Pierre-Joseph Redouté

ボタニカル・アートの天才画家 ピエール = ジョゼフ・ルドゥーテ
[Pierre-Joseph Redouté] (1759~1840年) は、
現在のベルギー南東部、フランス語圏ワロン地方のアルデンヌの
豊かな森に囲まれた静かな町サン・ユベール (サン・チュベール) に、
代々画家を生業とする家の次男として生まれました。

フランス革命の動乱期、ルイ16世王妃マリー・アントワネットの
幕集室付素描画家として、のちにナポレオン1世皇妃ジョゼフィースに仕えた
宮廷画家として自然史博物館付植物画家、園画講師を歴任しました。

ルドゥーテは、植物学的正確さを踏まえ、独特の手の込んだ技法
スティップル・エングレーヴィング [stipple engraving] (点刻彫版法) による
多色刷り銅版画に手彩色を施すことにより、輪郭線を可能な限り排除し、
点の集合で陰影を表現した細密、繊細優美な色彩の濃淡によって
芸術性豊かな植物の肖像を描き出すことに成功しました。

代表作は、バラ栽培に情熱を燃やし『近代バラの母』とも呼ばれている
世界中のバラを描いた『バラ図譜』[Les Roses] (1817 ~ 24年)です。

ボタニカル・アート(植物を描いた博物画)の金字塔といわれる園画

169点、紺紙のリースの作品を含めた全170点の大著です。

その他『ユリ科植物図譜』[Les Liliacées] (1802 ~ 16年)
『美花選』[Choix des plus belles fleurs] (1827 ~ 33年)等、
ボタニカル・アートの頂点を極め、古今東西最も名声を得た彼は

『花のラファエロ』『バラのレンブラント』とも称され、

その作品は、今多くの人々を魅了し続けています。



入会のご案内

当協会は、ピエール = ジョゼフ・ルドゥーテ作品をはじめとする
ボタニカル・アートの世界を通じた歴史的および美学的な
植物に関する情報に興味がある皆様の
積極的なご協力とご参加をお待ちしております。

特典

会員プライベート観賞会・特別イベントへのご案内

会費

お問い合わせください。



一般社団法人
日本ルドゥーテ協会



一般社団法人 日本ルドゥーテ協会

FAX : 055-235-1701 URL : <http://redoute.or.jp>

協会口座

山梨中央銀行 美術館前支店 普通口座 220821

副代表理事 奥延哲也

ルドゥーテの花は、ただ写実的に描かれているだけの様に見えるのに、
なぜ多くの人々を惹きつけるのか…

それは、ルドゥーテが、自然の花を慕い深く理解し、
それぞれの種の理想の姿を描こうとしたからだと思うのです。

ただし、理想の姿を描くことはどう難しいことはありません。

例えば、レオナルド・ダ・ヴィンチはモナリザを一生書き続けたと言い伝えられているように、
理想の姿はそう易々と描かれるものではないのです。
花を観察し、その美しい姿を忠実に描き写すのも、
そんなに簡単なことではないでしょう。
しかし、ほど正確無比に描かれていくよう、
必ずしもそれに惹かれるとは限らないのです。

実在するものの、こよない理想の姿を追求すればするほど、
実在するものから次第に離れて空想(ファンタジー)や
想像(イメージーション)の領域のものとなります。

そこには創造(クリエーション)があり、創造無くて理想の姿は描けません。

そして、ルドゥーテの花は、理想の姿を描こうとして現実の花を超える、
創造されたアートのものの、人々の心を捉えて離れない、
まさに超現実的な花のイコンになったのです。

副代表理事 中村美砂子

王妃マリー・アントワネットに仕え、宮廷画家となったルドゥーテを、
フランス革命の後に庇護したのは、ナポレオンの皇妃ジョゼフィースでした。
彼女は自分の宮殿マルメゾンに世界中から珍しい植物を蒐集しており、
その記録係としてルドゥーテを呼んだのです。

ジョゼフィースによってルドゥーテは、臣下というより、
共に深く花を愛する友人でした。

ナポレオンは結婚後14年余りでオーストリア皇女との結婚のために
ジョゼフィースを離縁しますが、この離婚は

ジョゼフィースに大変なショックを与えたと想われています。
ルドゥーテは、失意の底にいる友人を何とかぐるめたいとの思いから、
植物の中でジョゼフィースが最も愛したバラを描いた画集、

かの有名な『バラ図譜』の制作を彼女に提案したと言われています。

『ロサ・レデューテ・グラウカ』は画家ルドゥーテの名が冠されたバラです。
淡いピンクに緑ぞれられた白い一重のバラは水彩画のように繊細な色使いで、
葉の薄い紅色や灰色まで丁寧に描かれてまるで日本の山桜のよう

優しい風情を醸し出しています。

皇妃も画家も世を去り、この絵のバラも今はもう実物を見るにはできませんが、

悲しみに暮れる大切な友人を元気づけたいと心を碎くルドゥーテの、

優しい内面をふと思わせる大好きな作品です。



代表理事 後藤みどり

私が20代の頃、家業の園芸店を継ぐために
総合園芸店で修業をしつつ、フラワーデザインの勉強をしていた時に
ルドゥーテの絵と運命的に出会い、オールドローズに魅了されたことが、
今のバラづくりやオールドローズの世界を広める仕事に繋がっています。

当時、紫玉、ロサ・ダマスクネア、ロサ・ガリカ・オフィキナリスが
ひっそり咲いていた実家の庭園で、野生のバラの逞しさと
繊細な花弁の可憐さに、その芳醇な香りに何度も魅惑されたことでしょう。

ルドゥーテも描いた「ロサ・ガリカ・オフィキナリス」は、
ローマ時代、薬用ハバとして利用された品種で、暖地では力強く、
寒冷地では伸びやかに伸びやかに咲きます。

蕾が膨らみ始めた時の細く尖ったのが先としても愛しく、
こののが開いてローズピンク色が見え始め、花弁が開くと

蝶や蜜蜂達が集まり、花と虫の香りが渾然一体となった

花鳥風月の情景に時を忘れてしまいます。

植物の人間に与える多感な情念、優しさ、力強さ、そしてその美しさを

余すことなく描き切ったルドゥーテのボタニカル・アートの世界を

一人でも多くの日本の方に知っていただきたく、2015年5月1日に、

一般社団法人 日本ルドゥーテ協会を設立しました。

微力ながら私は代表理事として、ルドゥーテの世界観と共に

オールドローズの持つ限りない美の世界を、伝道して行きたいと願っています。



ロサ・ガリカ・オフィキナリス



ロサ・レデューテ・グラウカ